

く る み

講中を訪ねて

参議院議員 ありむら治子

「国のため、なすべきこと」



ごあいさつ

冒頭にあたりまして、謹んで皇室の弥栄と国家の安泰、氏子崇敬者の皆様の平安をお祈り申し上げます。

本年は日本にとって、大きな年となりそうです。熱田神宮が創祀一千九百年、出雲大社が六十年に一度の遷宮、そして、伊勢の神宮に於いて式年遷宮、最大の御事である遷御が十月二日に内宮(天照皇大神宮)、五日には外宮(豊受大神宮)にて行われます。日本を代表する社として名高い三社が、同時に嘉年を迎えるということ自体が、なにか新しい始まりを予感させます。

国政においても、民主党政権から、安倍首相率いる自民政権に変わり、七月には参議院選挙が行われます。参議院選挙の結果の如何では、様々な物事において大きな変化をもたらすことでしょう。神道の精神に基づいてご活躍されておりますありむら治子先生が、神道政治連盟の推薦候補として参議院議員選挙に出馬を予定されており、当社の社報に寄稿を頂いておりますので、ご一読願えましたら幸いです。

さて、当社にいたしましても東日本大震災からの復旧に向けて、皆様のご支援を頂きまして、道筋がついて来たところでございます。翌年には、鳥居を除く大部分の修繕を終えた姿を皆様にお見せ出来る予定です。震災から二年を過ぎて尚、皆様から、尊い御浄財をお寄せ頂いておりますこと、篤く御礼申し上げます。完全なる復旧にはまだまだ時間を要することかと存じますので皆様には変わらぬご支援、ご指導をお願い申し上げます。

めまぐるしく、変化する社会状況に、日本も対応していかなければならないとは思いますが、変わってしまったてはいけない物事、精神が必ずあります。神社を護持し、神道の世界観を伝えて行くことが、日本を守ることと信じ、日々の奉務に当たる所存です。

笠間稻荷神社 宮司 塙東男

笠間稲荷神社復興奉賛金へのご協力をお願い

平成二十三年三月十一日に発生いたしました東日本大震災により当社におきましても御本殿を始め鳥居、社務所、灯籠など甚大な被害を被りました。

当社における震災からの復興工事もご崇敬者皆様の、あたたかな支援により、推し進められております。

しかしながら、未だ修復工事も完遂しておりません。

また、この事業は多大な資財を要し、ご崇敬者各位のご協力を仰がなければなりません。

皆様の信仰の場として一日も早い復旧、復興を目指して復興計画を策定し推進して参る所存でございます。

つきましては、何卒事情ご賢察賜り、この事業が一日も早く完遂できますよう全国崇敬者皆様の心からなるご奉賛を仰ぎたく、格別なるご援助とご協力をお願い申し上げる次第でございます。

○復旧経費

四〇〇、〇〇〇、〇〇〇円

○期間

平成二十三年三月～平成二十六年三月(予定)

○基金

笠間稲荷神社氏子・崇敬者の寄附金

《震災直後と現在》



◎ご奉賛について

- 一、ご奉賛は、ご参拝の節か郵便振替、指定取扱い銀行振り込み何れでも結構です。
- 一、ご奉賛戴きました際には、早速大神様にご奉告申し上げ、芳名簿に記し、ご神前に献納致し永く顕彰致します。
- 一、ご不明な点等がございましたら、奉賛会事務局までご連絡下さい。

○振込先のご案内

郵便振替の場合

口座記号番号

〇〇一三〇・二・五九六一二四

宗教法人笠間稲荷神社復興奉賛会

指定銀行振込の場合

常陽銀行笠間支店

(普)一五〇六四四八

宗教法人笠間稲荷神社復興奉賛会

指定寄附金 代表役員 塙 東男

お問い合わせ先

電話 〇一九六・七三・〇〇〇一

復興奉賛会事務局

八月

一日 本社御田植祭

事比羅祭

末社祭

四日 献燈祭

六日 旧大祓式



献燈祭 十七時

私たちが普段から使用する火に感謝するとともに、祖先の霊を慰め、日頃の感謝をお伝えするお祭りです。境内の石灯籠や御崇敬者の皆様から御奉納いただいた灯籠に灯りが灯されます。また行燈の御奉納は大行燈（壱万円）、中行燈（五千円）、紙行燈（千円）とあり、どなたでも御奉納いただけます。詳しくは社務所までお問い合わせ下さい。



九月

十九日 中秋祭

二十三日 秋季皇霊祭

小笠原流弓術奉納式



小笠原流弓術奉納式 十二時三十分

礼法、弓術、馬術の伝統文化を守り現代まで伝えてきた弓馬術礼法小笠原教場一門により弓術の奉納が行われます。当日は、武家社会において正月の弓始式の時に行われていた三三九手挟式や射術の稽古として行われた草鹿式（くさじしき）などの弓術が境内の特設会場において奉納されます。厳格に行われる奉納式を是非ご覧下さい。

十月



十七日 神嘗奉祝祭
十九日 菊まつり開場式
二十八日 尚齒祭
三十日 講社大祭

講社大祭 十一時

地域や血縁、仕事などで結ばれた皆様が、当社の御祭神の御加護に感謝し、講中という団体を組織します。その講中の御代表をお招きし、各講中の繁栄と講員の皆様のご隆昌をお祈りするのが、この講社大祭です。秋季に斎行される本年は、境内に菊花咲き誇る中を宮司以下神職が厳かに参進します。



十一月

三日 明治祭

神事流鏑馬

九日 示現流奉納奉告祭

十日 大和古流奉納奉告祭

十五日 霜月祭

十七日 舞楽祭

二十三日 新嘗祭・献穀献繭祭

三十日 菊まつり千秋楽

神事流鏑馬 十時／十四時

弓馬術礼法小笠原教場一門をはじめ、氏子や古武道振興会の有志、地元の小学生らの奉仕のもと行われます。本来の目的である農業の吉凶を占うのはもちろんのこと、流鏑馬という伝統文化を世間に広め、地域の皆様に親しんでいただけるように毎年文化の日に斎行されます。

当日は境内での安全祈願祭の後、笠間小学校前の特設馬場まで古式に則り参進し神事に移ります。間近で行われる大迫力の流鏑馬を是非ご覧下さい。





御火焚串炎上祭 九時

御崇敬者の皆様が氏名や願い事を書いた御火焚串に
神聖な火を灯し、火の霊力により罪穢れを祓い、願意
成就、無病息災、除災招福を祈願するお祭りです。
御火焚串は五百円にて随時受け付けており、祭典当
日はどなたでもご参列いただけます。



十二月

二十二日 御火焚串炎上祭
二十三日 天長祭
二十八日 鹿島祓
三十一日 大祓式

「国のため、なすべきこと」

参議院議員 比例代表(全国区) ありむら治子

「桜田門外の変」で活躍した十八烈士の一人、有村次左衛門は私の四代前の先祖にあたります。国会議事堂の正門前から東京駅に向けて坂を下ること約五百メートル、警視庁庁舎の近くに桜田門は位置しています。顔も知らない昔のご先祖様が、日本の将来のために命を賭けた場所のすぐ側で、今、私が議会人として国政の場に立たせて頂いているのは、不思議なご縁だなあと感じます。

桜田門外で井伊大老の首級をあげた次左衛門は、和田倉門付近まで走ったところで力尽き自刃しました。東京駅丸の内口と皇居の間点に位置した和田倉門も今はなく、交差点として名を留めるのみです。

有村の辞世の句として有名な「岩が根も 砕かざらめや 武士(も ののふ)の 国のために」と 思い切る太刀」は、昭和十七年には「愛国百人一首」に選定され、広く人口に膾炙しました。東京駅から全国に

出張する時、和田倉門交差点を通過しながら、幕末期、「国のために」と「短い人生を駆け抜けた次左衛門の生き様に想いを馳せます。

それぞれの人柄を持ち合わせた個々が寄り添って家庭をもつことで、その家の家風・家柄が生まれます。幾つかの家が集合して地域になり、地域柄という特色を持ち

ます。そして、地域・地区の集合体である日本という国の国柄が誕生したわけです。まさに、一人一人の想いが究極的には国を形作っているとも言えます。

過去・現在・未来と続く時間軸の中で、私達が生を受け、生きている、今この瞬間は確実に過去と未来を結びつけている大事なひとときです。時間軸を認識し、その時々で自らにできることを精一杯にやり遂げることが、国会に議席をお預かりしている私の務めだと思っています。

二期十二年の歩みを重ねて、政治家としての嗅覚を磨いて参りましたが、日本を取り巻く国際状況が混迷化する今こそ、その嗅覚を民族の生存可能性を高めるために発揮すべき時だと考えます。自民党内での立場も若手議員から執行部に参画する中堅に移行し、私に求められる役割が多くなってきました。もちろん、役職には責任が伴い、時には大胆な決断を迫られることもあります。この選択の経験の積み重ねが、物事に対し冷静に慎重に、そして何より真摯に向き合う姿勢を錬磨し、決断を下すという重責を与えて頂いたことを謙虚に考える契機となっています。

これからも「しっかりとした国家観と、地に足のついた生活観を併せ持つ課題解決を図る」ことを旨とし、真っ直ぐで迷いのない活動を進めて参ります。志を同じくして下さる皆様のご健勝を念じ、今後変わらぬご指導・ご交誼を賜りますよう、心をこめてお願い申し上げます。



第106回
笠間の菊まつり

大菊人形展

笠間稲荷神社

日本三大稲荷

関東の小京都を彩る
日本最古の菊の祭典

平成25年
10月19日(土) ~ 11月30日(土)

8時半 ~ 16時半(入場は16時まで)

菊人形展
八重の桜



笠間稲荷神社日誌



平成二十五年

赤字：祭典
緑字：行事
黒字：講中参拝・正式参拝

◆一月

- 一日 歳旦祭
高梨講・茨城日産自動車㈱・
下野小山須賀笠間稲荷講・
八千代講・藤井講・赤坂講・
サンツアー海上営業所
元始祭
小松稲荷講
五日 新始祭
野尻笠間講・明誠講・
海上芋苗組合・
根崎解体工事㈱
昭和天皇祭遥拝式
七日 JR水戸鉄道サービス㈱・
㈱国分建設・笹本笠間稲荷講
九日 JAながの長野平支所億友会
十日 初事比羅祭
十一日 ヤマト運輸㈱茨城主管支店・
茨城総合警備保障㈱
十二日 ㈱野上運輸
十三日 東毛敬神講・嶋田商会・穂波会
十四日 尖閣諸島安全祈願祭
繭玉飾り
㈱横山喜惣治商店・石井工業信友会



◆二月

- 十五日 古札炎上祭
㈱秋田土木
十九日 山高野講
二十日 東京平和講・柏崎講
二十二日 御本殿豊奉納奉告祭
二十三日 笠間稲荷門前講
二十四日 野田市今上笠間稲荷講
二十五日 初天神祭
二十六日 防災訓練
笠間稲荷神社敬神婦人会・
正徳講・㈱ナテック
二十七日 神明宮宮司齋藤博明様・
麻生笠間講・下三ヶ尾笠間講・
キャラエーピー㈱・
房地組合・弥栄講
二十八日 大麻頒布終了奉告祭
三十日 東宝上町講
二日 石の葉講・野中組稲荷講・堀の内組
三日 節分祭奉告祭・節分追儺式
共栄講・大木講・都賀町講・笠間友部街商組合
四日 幸手講



- 五日 大山笠間講・木間ヶ瀬笠間講・
船形観光友の会・栄町講
七日 北方領土返還祈願祭
サカイ会祈願会
針供養祭
東京八方講
八日 初午大祭・旧大祓式
阿字ヶ浦講・
川上実行組合・
下古山講・
網戸中宿稲荷講・
取手市機械工業会・
旭市奉賛会・並木町笠間講・阿字ヶ浦保食講
旧歳旦祭
十日 野田市蕃昌笠間稲荷講・鶴ヶ丸講
紀元祭
十一日 八丁通り商店会・野田市信栄講・
船形笠間稲荷講・山武市成東夫婦講
十三日 ㈱茨城県経営者協会青年経営研究会
祈年祭・初穂講大祭
十四日 水戸市飯富歴史探訪クラブ
十七日 中峰笠間講・中野台笠間講・
上花輪稲荷講
十八日 東京弥栄講
二十日 笠間一心講



二十一日 豊田稲荷講・松原稲荷神社・

元町笠間稲荷講

二十二日 野田七親講

二十四日 栃木市笠間会・大相模笠間講・

川口商栄講・下落合笠間稲荷講

二十七日 初甲子祭

明治神宮崇敬会東松山支部

◆三月

一日 当社責任役員会・総代会

二日 昭和南中学校同窓会

三日 笠間稲荷高柳講

五日 鶴谷八幡宮宮司酒井昌義様・

貴船笠間講

八日 絵馬コンクール審査

十日 森ノ根稲荷講・秋山講・

井沼方講・本妙講

十五日 東日本高速道路(株)社長廣瀬博様

十六日 心和講

十七日 旧初午大祭

向町笠間講・

阿字ヶ浦西久保稲荷講

十八日 柳沢胡桃下稲荷講

二十日 春季皇霊祭選拜式・

絵馬祭

絵馬コンクール表彰式



二十四日 幸栄親睦会

二十七日 筑波山神社宮司田中泰一様

二十八日 新入社員研修開始

◆四月

一日 新入社員入社奉告祭

三日 神武天皇祭選拜式

七日 大櫻笠間講・舍人講

八日 浦和辻神仰会・

東京笠間講

九日 例大祭

豊四季講

十日 藤岡稲荷講

十四日 笠間稲荷下谷参拝講

二十日 東京月島笠間稲荷講・東京丸佐講

二十一日 長心講

二十三日 笠間稲荷神社旭講・秩父親和講

二十八日 甲子祭

東京紋三郎講

二十九日 昭和祭

三十日 国際ロータリー第3350地区

短期青少年交換訪問団



◆五月

十日 御田植祭

十二日 東毛敬神講・

東京笠間報恩講・

東京大栄講・

上尾笠間稲荷七胡講

十六日 清河寺講

十八日 東京胡桃講

十九日 小鹿野笠間講

二十一日 城南宮宮司鳥羽重宏様

二十五日 東京笠間信友講

二十六日 植樹祭奉告祭

二十七日 本宮祭(茨城・群馬・福島・

城南宮欄宜川崎重寿様

二十八日 本宮祭(埼玉・千葉・その他)

二十九日 本宮祭(栃木・東京・神奈川)



◆六月

二日 東京あづま講・

長江建材工業(株)

七日 国際ロータリー第3350地区

短期青少年交換訪問団

十六日 西秩父笠間講

二十三日 車の茅の輪くぐり

二十七日 甲子祭

三十日 夏越の大祓式



講

中を訪ねて 小松稲荷講

当社には古くから「講中」という団体で参拝される崇敬者の組織があります。
地域、血縁、仕事仲間など、稲荷大神様とご神縁を結ばれた様々な講中が
全国各地で活動しています。今回、ご紹介するのは・・・



講元
廣瀬 俊夫

廣瀬運輸 株式会社
代表取締役社長
昭和10年生まれ(78歳)

昭和50年、先代講元廣瀬誠さんの後を継いで小松稲荷講の講元に就任。

「何よりも神様のことをいちばんに考えて行動してきましたし、そうあるべきだと思っています。廣瀬家は代々笠間稲荷神社を信仰していたので、崇敬心は自然と生まれ、商売・日常生活の様々な場面で守られていると感じています。」

以前は当社へ初穂を献納し新嘗祭・秋穀献酬祭へ参列する講員がいたことから、祭典に併せて十一月二十三日を参拝日としていました。現在は献納者がいなくなった為、日にちに拘らず境内に菊花香る十一月、観菊も楽しみに参拝しておられます。

講中参拝の準備にご活躍いただく世話人の皆さんからも「御祈祷を受けると気持ちが変わる」「神社は心の安まる場所、どんな時でも気持ちの拠り所となる」「何かあれば必ず参拝して、御礼詣りも大切にしている」「息子が独立して商売を始める時にまず笠間へ

様へ感謝しておられます。

「江戸時代、牛馬で物を運ぶところからはじまった茨城最古の運送業」という廣瀬運輸株式会社の代表取締役社長を務める廣瀬俊夫さんは、昭和五十年、小松稲荷講の講元に就任しました。先祖代々笠間稲荷を信仰している廣瀬さんは敬神の念篤く、講元就任以来約四〇年、神詣りの姿勢を自ら講員に示しており、ご自身が四回病に倒れ、その度に復帰できていることに「御加護を感じる」と言い、日々大神様へ感謝しておられます。

霞ヶ浦に程近い茨城県土浦市小松にお住まいの講元・廣瀬俊夫さんと世話人八名が中心となり講を盛り立て、毎年秋に参拝する小松稲荷講は、昭和二十九年十一月に発足しました。

講名は、講元・講員が暮らす地域の大字より「小松稲荷講」とし、血縁・地縁で結ばれた方々が講員として共に参拝しておられます。

お詣りし、その帰り道に最初の仕事に繋がる電話が入り、御神徳を感じた」等と稲荷大神様への感謝の思いや、御加護を実感されたエピソードを沢山お聞かせ頂きました。

世話人で講元のご子息の廣瀬勝俊さんは「笠間様へ参拝し、神札をお迎えして自宅でお祀りをする事は当たり前」と言い、一方で今後講員が世代交代していく中で、講中参拝を「当たり前」に継続していくことの難しさも感じておられますが「一人でも多くの講員を募り笠間様にお詣りに行ければ」と心強いお言葉をくださいました。

廣瀬講元、世話人各位のお力添えにより御神縁を結ばれた講員皆様方のご多幸と小松稲荷講の一層のご発展をお祈り申し上げます。次回のご参拝を心よりお待ちしております。



▲お忙しい中、取材当日お集まり頂きました小松稲荷講の皆さん。
前列左より、会計・廣瀬美知さん(講元夫人)、講元・廣瀬俊夫さん、世話人・横張英市さん、世話人・廣瀬勝俊さん(講元ご子息)。
後列左より、世話人・廣瀬弘さん、世話人・羽鳥勝雄さん、世話人・廣瀬憲夫さん、世話人・廣瀬和彦さん。
ほかに、岡野功志さん、岡野光雄さんが世話人を務めておられます。毎年9月頃に世話人会を開催し、講中参拝の準備・講員の取り纏め等をし、講運営にご尽力いただいております。

日本の心を大切に、思い出に残る神前結婚式

笠間稲荷神社の御祭神・宇迦之御魂神は、生命の根源を掌る「いのち」の根の神様でございます。神前結婚式は、代々受け継がれてきた「いのち」を、これより後もつないでいく約束をする、新郎新婦お二人の人生の大切な節目です。



稲荷大神様の御加護の下、ご両家の絆を固く結び、
お二人の末永いお幸せを心よりお祈り申し上げます



- 初 穂 料：亀式5万円(雅楽生演奏1名)、鶴式10万円(雅楽生演奏3名、巫女舞あり)
 挙 式 場：社務所内・儀式殿(見学可)、拝殿挙式は斎行致していません。
 設 備：披露宴・パーティー会場は併設していません。控え室ご両家各1室、更衣室1室使用可。
 撮 影：境内撮影自由、挙式中の撮影は一部制限があります。撮影用の椅子等の貸出は不可。
 衣 装 等：和装・洋装の決まりはありません。衣装はご自身でご用意下さい。
 参 列 者：基本的に親族のみ可、新郎新婦含む30名以内は規定初穂料にて斎行、30名以上は1名毎500円増。
 挙式参列可能人数は両家各18名まで、直会は60名程度まで対応可。いずれも要相談。
 挙 式 時 間：亀式1時間、鶴式1時間15分程度。祭典日を除き9時～15時の間の希望時間より斎行可。

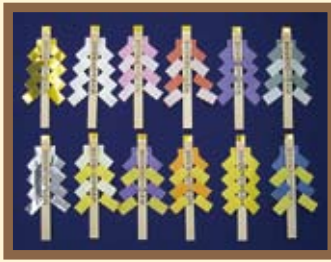
<お問い合わせ> 笠間稲荷神社社務所 崇敬係(すうけいかかり)
 ☎0296(73)0001 9:00～16:00

結婚式のお申し込み・式場のご見学・ご相談等でご来社の際は、前日までにご連絡下さい。
 祭事等の都合によりご案内致しかねる場合がございますので、ご理解ご協力をお願い申し上げます。

月詣り

御祭神宇迦之御魂神は「いのち」の根の神として、衣食住・殖産御守護と、人々の生活すべてに御神徳のある大神様であり、御恩顧にあずかる崇敬者の方々の心の支えとなっております。その中には「月詣り」をされる崇敬篤い方が大勢いらっしゃいます。

月詣りとは、月毎に大神様の御加護を受け、前月よりの平穏無事を感謝し、新たな護神徳を頂くことであります。月詣りの方には神苑に咲く花を表した御幣を授与しております。どの月からでも始めて頂けますので、ご希望の方は受付までお申し出下さい。



▲神苑に咲く花を表した月詣りの御幣

新嘗祭・献穀献繭祭

（穀類・繭のご献納について）

当社では毎年十一月二十三日（勤労感謝の日）、新嘗祭・献穀献繭祭にあわせて献穀献繭品評会を開催しております。

新嘗祭とは、宮中および全国の神社で行われる収穫祭で、当社で新嘗祭にあわせて斎行している献穀献繭祭は、新穀・新繭を奉納し、農業や養蚕業に対する稲荷大神様の御守護と御神恩に感謝し、それらの発展を祈願する祭典です。

ご献納いただきました穀類・繭は、品評会を開き、等位をつけ、境内回廊に展示致します。

また、品評会の等位により賞状・賞品を、献納者全員に御神札・御神供・記念品等を授与致します。

上位入賞者は献穀献繭祭にご参列頂き、祭典後の表彰式にて賞状・賞品の下附があります。



▲新嘗祭・献穀献繭祭(11月23日)

【献納要項】

当社では、献穀献繭祭への穀類・繭のご献納を募集しております。ご献納いただける方には、穀類の献納袋、繭の献納網と荷札を献納要項と共に送付致します。新たに献納を希望される方は、笠間稲荷神社 崇敬係までご連絡下さい。

◆穀類：玄米（その他穀豆類）二升一袋

◆繭：産期ごと四〇〇グラム一網

◆献納締切日：十月三十一日

◆献納方法

①笠間稲荷神社 崇敬係へご連絡下さい。

②献納袋・献納網・荷札をお送り致します。

③期日までに献穀・献繭を袋・網に入れて神社迄ご持参頂くかご送付下さい。尚、穀類送付の場合は脱漏の恐れがありますので箱や布袋の併用をお願い致します。

◆その他

十一月上旬に献穀献繭審査を行い、入賞者へ等位（一位～四位）をハガキで通知致しますので、献納袋、荷札には必ず献納者の氏名・住所をはっきりとご記入下さい。



▲献納網



▲荷札



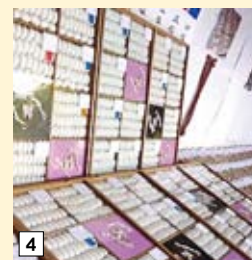
▲献納袋



2



1



4



3

1 2 11月初旬、献穀献繭品評会の為、献納された穀物・繭を審査します。

3 4 審査終了後、献穀献繭祭前後1週間程度、境内回廊に献穀献繭品評会として穀類・繭を展示します。



常陸七福神めぐり

～お問い合わせは各社寺へ～



⑧月山寺

布袋尊

TEL〇二九六(七五)二二五一



桜川市西小嶋一六七七



延暦十五年(七九六)法相宗徳一大師開基と伝わる月山寺は、永享二年(一四三〇)光榮和尚が天台宗に改宗し、以後関東の天台宗の中心となった古刹です。元和一年(一六一五)徳川秀忠より格式十萬石、朱印地六十石を受け、天台宗関東八ヶ檀林のひとつに数えられました。

月山寺に祀られている七福神は布袋尊で、中国五代(後梁)の頃に実在した契此という禅僧であったと伝わっています。吉凶や天候を占ったといわれ、後に福神として人々に信仰されるようになりました。

布袋尊は、暮らしに困っている人々に大きな袋から様々なものを与えたといわれ、主に豊満な身体に杖を持ち、大袋を背にしたお姿をしております。

七福神で八つの幸せ

七福神とは人々に幸福をもたらす庶民のための心優しい神様たちのことです。

常陸七福神は、霞ヶ浦を中心に、全国でも珍しく八つの神社とお寺に安置されております。

笠間稲荷神社には、福德・財宝を与える神として信仰を集める大黒天が祀られており、御縁日である甲子の日には多くの崇敬者で賑わいます。



▲御縁日には大黒天前で甲子祭が斎行されます。

本年の甲子祭は六月二十七日、八月二十六日、十月二十五日、十二月二十四日に斎行されます。

今号では、常陸七福神のうち、月山寺に祀られている布袋尊と、東京・日本橋の七福神めぐりを紹介致します。巡拝路が日本最長の常陸七福神、そして日本最短の日本橋七福神を、どうぞ巡拝し、幸福をお受け下さい。

東京・日本橋七福神めぐり

ミステリー小説『麒麟の翼』(東野圭吾著)に登場し話題を集めました東京・日本橋七福神は、どの神様も神社に祀られております。当社東京別社に祀られて



▲笠間稲荷神社東京別社。日本橋七福神・寿老神が祀られています。

れているのは、長寿延命・お導き・幸福の神様である寿老神です。巡拝路が短く、約二時間で巡拝が叶うことから、お正月は特に七福神めぐりをする方々で社頭が賑わいます。

東京へお出かけの際は、下町の情緒あふれる日本橋・当社東京別社へぜひ足をお運び下さい。



- ①寿老神 笠間稲荷神社 中央区日本橋浜町二一―一六
 - ②恵比寿神 相森神社 中央区日本橋堀留町一―一二
 - ③福祿寿 小網神社 中央区日本橋小網町十六―二十三
 - ④布袋尊 茶ノ木神社 中央区日本橋人形町一―一二
 - ⑤弁財天 水天宮境内室生弁財天 中央区日本橋蛸殻町二―四―一
 - ⑥大黒天 松島神社 中央区日本橋浜町二―三十三
 - ⑦毘沙門天 末廣神社 中央区日本橋人形町二―十五―二
- 中央区日本橋人形町二―十五―二十

神社のいろは



▲鳥居禮画「外宮御正殿之圖」

■笠間稲荷美術館展覧会のご案内■

今秋、笠間稲荷美術館では、神宮せんぐう館に遷宮諸祭画計31点が収蔵されました新日本画家・鳥居禮画伯の「神々と神話」をテーマとした作品展を開催致します。菊花咲き誇る秋、鳥居画伯の描く清らかで美しい日本の心をご高覧ください。

◆会期

平成25年10月19日(土)～11月30日(土)まで

その他、ご質問等ございましたら、神社社務所までお問い合わせ下さい。

笠間稲荷神社社務所

☎0296(73)0001

Q 伊勢神宮とはどのような神社ですか？

A 伊勢神宮、お伊勢さんなどと呼ばれることが多い伊勢の神宮の正式名称は「神宮」と称します。神宮とは、三重県伊勢市に鎮まります天照大御神をお祀りする皇大神宮(内宮)と豊受大御神をお祀りする豊受大神宮(外宮)の両宮を始め、別宮、摂社等合わせて一二五社の総称です。皇大神宮の御祭神天照大御神は皇室の御祖神として貴い御存在であり、我々日本国民の総氏神様です。

Q 神宮の式年遷宮とは何ですか？

A 式年遷宮とは、定められた期間ごとに新たな御社殿を造営し、神様にお遷りを願い、御装束神宝も新たに作る祭典で、神宮では二十一年に一度斎行されます。今から約千三百年前、持統天皇四年(六九〇)に第一回の御遷宮が行われて以来、戦国時代に一時中断がありましたが、ほぼ二十年毎に繰り返されています。本年(平成二十五年)、第六十二回の御遷宮が斎行されます。

Q 神宮の式年遷宮は、なぜ二十一年に一回と決まっているのですか？

A 明確な根拠を示す資料はありませんが、木造建築物の耐用年数に基づいているという説や、工匠等が次世代に技術を伝承していくのに適当な間隔であるという説等があります。二十一年に一度、神宮の御社殿をはじめ御装束神宝全てを新しくすることで大御神の御神威がさらに高まり、日本全体が若々しく甦ることでしょう。神宮の式年遷宮は、日本の心と技を古代から未来へ永遠に伝えていく重要な祭典です。



笠間稲荷神社

社報「胡桃」No.31 平成25年6月発行 発行所／笠間稲荷神社社報編集委員会 茨城県笠間市笠間1番地
電話0296(73)0001(代) FAX0296(73)0002 テレホンサービス0296(73)0003ホームページ<http://www.kasama.or.jp/>
Eメールinfo@kasama.or.jp 編集発行人／塙 東男 本誌の写真、イラストレーション、記事の無断転載を禁じます。